

## 前頭側頭型認知症の予防又は治療用医薬

### 利用・用途・応用分野

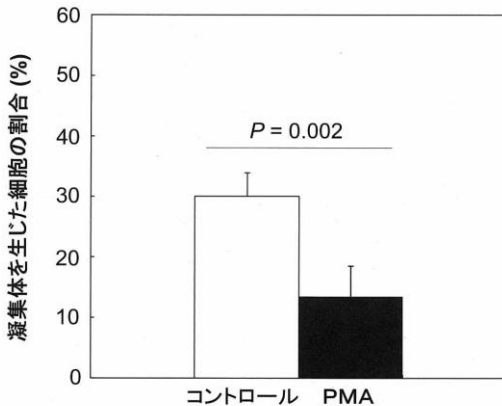
アルツハイマー病や前頭側頭型認知症等の神経変性疾患の治療又は予防分野

### 目的・課題

これまでに神経変性疾患に対して様々な治療薬が開発されているが、実際に治療に使われているものはすべて対処療法のものであり、根治につながる治療薬の開発に成功していない。  
アルツハイマー病や前頭側頭型認知症の原因となるタウタンパク質の凝集を抑制する剤を提供することを目的とする。

### 解決ポイント

- ◆認知機能障害の研究を進める中で、熱ショック転写因子Heat Shock Transcription Factor 1 (HSF1)がタウタンパク質の凝集に関与することを見出した。
- ◆HSF1の活性化に関与する物質を発明者らの経験と勘に基づき網羅的に調べたところ、ホルボール12-ミリストート13-アセートによりタウタンパク質の凝集を抑制可能であることを見出した。



pEGFP-N1-tauR406Wアデノウイルスベクター添加から6時間後にPMAをNeuro-2a培養培地に加えた場合の凝集体を生じた細胞の割合を示す図

※PMA単独であってもタウタンパク質の凝集抑制効果があることが明らかとなった。

### 研究概要・アピールポイント

- ◆ホルボールエステルを有効成分とするタウタンパク質の凝集抑制剤を作成する。  
ホルボールエステルとしては、ホルボールエステルがホルボール12-ミリストート13-アセートであることが好ましい。
- ◆タウタンパク質の凝集を抑制することが可能となる。
- ◆タウタンパク質の凝集を抑制することにより、タウタンパク質の凝集に起因する神経変性疾患の予防又は治療を行うことが可能となる。

### ◆ お問合せ先 ◆

有限会社山口ティール・エル・オー TEL: 0836-22-9768 E-mail:tlojim@yamaguchi-u.ac.jp